

リサーチ×人流データで実現する

BEV保有者の 利用実態調査と分析

軽EVと普通EVユーザーの違いを
データから明らかに

ジオテクノロジーズでは、コンシューマ向けポイ活アプリ「トリマ」から得られる位置情報や移動データと、同アプリと連動するアンケートリサーチサービスを組み合わせることで、消費者のさまざまな行動を分析しています。今回は、その一例として「BEV（電気自動車）保有者の行動分析」をテーマに、調査・分析のベースとなっている当社の技術と実際の調査結果を紹介します。



ユーザー行動の調査に活用できる「人流データ」

業界最高クラスの精度を誇る人流データ

今回ジオテクノロジーズが「BEV保有者の行動分析」を行うにあたり重要なデータの1つになっているのが「人流データ」です。ジオテクノロジーズでは人々の位置情報や移動軌跡を集計した人流データ「Geo-People」を整備しています。このデータは5秒間隔または20メートル間隔で各ユーザーの移動を取得し、1日あたり収集されるログは10億に及びます。業界最高レベルの精度を誇るだけでなく、データには年齢や職業などさまざまな属性情報を備えていることも特徴です。

人の移動を「線」として捉えることが可能

この人流データはあるユーザーに関して期間をまたいだ移動を連続して捕捉することが可能です。さらに、ユーザーの移動速度から移動体を推定することもできます。そのため、例えばあるユーザーに関して「平日にどのような場所に、どのようなルートで、どの交通手段で行ったのか」ということも分析可能です。人の移動を点ではなく線で捉えることができるデータとも言えます。

自動車通行量データ

バックグラウンド取得率
90%以上

データ取得頻度
5秒or20m間隔

属性情報が紐づく

性年代 / 職業・役職 / 個人・世帯年収
居住地 / 移動手段 / 婚姻状況 / 等々

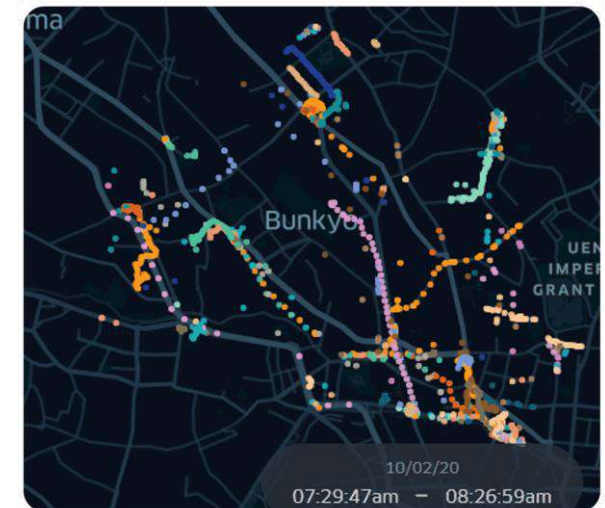
Geo-Peopleだからわかる

移動速度から
移動体の推定



同一ユーザーを補足して
期間内の全移動

点→線で捉えることが可能



ジオテクノロジーズの人流データの特徴

人流データ収集基盤としての「トリマ」の特徴

移動でポイントが貯まるアプリ

ジオテクノロジーズが日々高精度かつ膨大な人流データを収集できる秘密は、コンシューマ向けに提供しているモバイルアプリ「トリマ」にあります。トリマは徒歩や自転車、車など移動手段を問わずに移動するだけでポイントを貯められるアプリです。このポイントは各社のポイントや現金に交換が可能です。このトリマを通じて取得したアプリユーザーの属性情報およびそれに付帯する移動情報、位置情報が当社が保有する人流データのもとになっています。

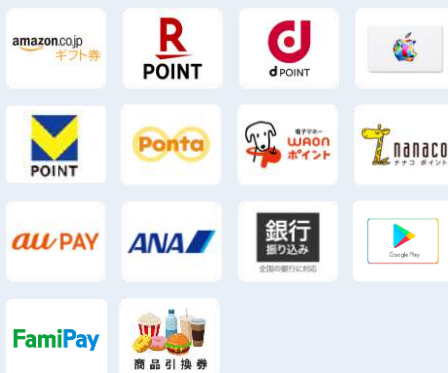
徒歩・自転車・車など
すべての移動手段で
マイルが貯まる



アンケート回答など
移動以外でも
マイルが貯まる



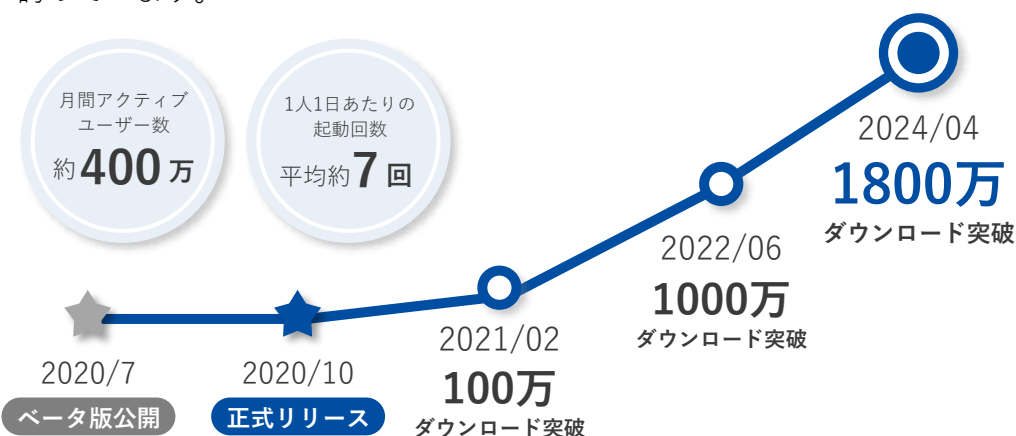
貯まったマイルは
各社ポイントや
現金などに交換



国内有数のユーザー数、月間約400万人が利用

トリマは、提供以来順調にダウンロード数が伸びており、累計で1800万ダウンロードを突破し、月間のアクティブユーザー数も約400万を記録しています。

アプリのユーザーは日本全国に均等に分布しており、移動するだけでポイントが貯まる手軽さ、ユーザーの生活に寄り添ったサービスの提供により、高いアクティブ率を維持し、国内トップクラスのユーザー数を誇っています。



地域別ユーザー分布

(カッコ内は人口比率※)

北海道・東北	12.0%	(11.0%)	中国	5.3%	(5.8%)
関東	34.3%	(34.6%)	四国	2.3%	(2.9%)
中部	16.7%	(16.8%)	九州・沖縄	10.9%	(11.3%)
近畿	18.5%	(17.7%)			

ジオテクノロジーズが提供するポイ活アプリ「トリマ」の特徴

アンケートリサーチサービス「Geo-Research」

約600万人の膨大なモニター数を保持

今回実施した消費者の行動分析のうち、核となるもう1つのデータがアンケート調査データです。ジオテクノロジーズでは、「Geo-Research」というトリマユーザーに向けたアンケートをベースとしたリサーチサービスを提供しています。

モニター数は約600万人と大きなユーザー数を抱えています。回収実績としては、約20万サンプルのアンケートを1日で回収したこともあります。さらに、通常のアンケートだと収集しづらい、若年層モニターも65%ほど抱えています。

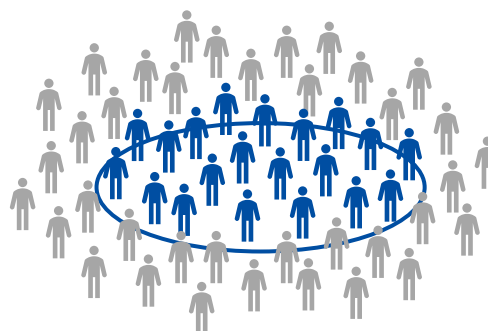
モニター

モニター数
約**600**万人

24時間の回収実績
約**20**万サンプル

若年層10-30代
約**65**%

人流データから スクリーニング



来訪歴や滞在歴など、ある場所に居た事実に基づいて調査対象者を抽出

対象を抽出してアンケート配信可能

Geo-Researchは、人流データからアンケートの配信対象をスクリーニングできる点が特徴です。来訪歴や滞在歴など、ある場所にいた事実に基づいてアンケート対象を抽出できるため、例えば、特定の電車に乗っていたユーザーや、ある特定の場所に来たユーザーだけに絞ってアンケートを配信できます。

これにより、先述の人流データで明らかにした人々の移動と、アンケートで収集したユーザーの意識情報を掛け合わせた調査が可能になります。

アンケート



ジオテクノロジーズが提供するアンケートリサーチ「Geo-Research」の特徴

アンケートリサーチと人流分析を掛け合わせた調査・分析

BEV保有者3,000人の利用実態を調査・分析

ここまで紹介した人流データとアンケートリサーチを組み合わせ、ジオテクノロジーズでは、「BEV（電気自動車）保有者の行動分析」を実施しました。BEVは保有者が少ないこともあり、これまで十分な調査が行われてこなかった領域です。そうした中で今回は「軽EVと普通EV保有車で移動に差はあるのか」を明らかにすることを主なテーマとして調査を行いました。

調査・分析は3つのステップで行いました。まずは、全国の4万5000人のトリマユーザーを対象にアンケートを配信し、そこからBEV保有者3000人を抽出します。その後、その3000人に対してアンケートを配信して12問の設問に回答してもらい、それを人流分析データと掛け合わせることでユーザーの意識と実際の行動を組み合わせた分析を行っています。

エリア
全国

回答対象
45,000人

BEV保有者
3,000人

設問
12問

回収
約13時間
(2023/9/21~9/22)

保有状況

BEV保有の有無
保有しているBEVの車種名

日常移動

平日の移動距離
休日の移動距離

経路充電

経路充電の経験の有無
経験有の場合、計画的か偶発的か
経験有の場合、充電したことがある場所
経験有の場合、充電場所の検索方法
経験有の場合、充電場所の充実度への感想

最長旅行 行程距離

平日の最長旅行行程距離
休日の最長旅行行程距離

航続距離

BEV航続距離への信頼度

ステップ1



アンケート調査を実施
BEV保有者を3,000人抽出

ステップ2



BEV保有者を車種ごとに分類
利用実態についてリサーチ

ステップ3



BEV保有者を対象に人流分析
意識と実移動をマッチング

調査概要（左）とその調査における3ステップ（右）

「軽EV」と「普通EV」ユーザーの比較結果

移動距離の差がないことが明らかに

今回実施した軽EVと普通EV保有者の移動距離の比較について、実際にアンケートによる調査をしてみたところ、移動距離の差はほとんどないという結果になりました。

軽EVと普通EVでは航続距離が異なるため、事前の仮説では「軽EVは街乗り中心のコンパクトな生活スタイルで、普通EVは中長距離を移動する生活スタイルといった差が出るのではないか」と予想しましたが、それとは異なる結果となりました。

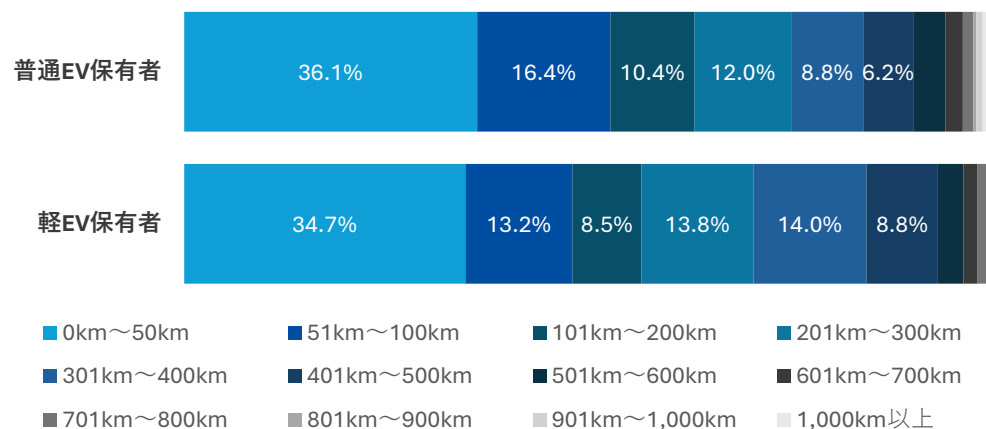
軽EVと普通EV保有者の「総移動距離比較（％）」

事前仮説

軽EVはコンパクトな生活スタイル、
普通EVは中～長距離を移動する生活スタイル

調査結果

軽EVと普通EVで「**移動距離の差が少ない**」
という意外な結果が明らかに



経路充電経験の差もほぼ無いと判明

軽EVと普通EV保有者の経路充電経験についての比較では、軽EVと普通EVの保有者で、経路充電の経験に大きな差はないことがアンケート調査により判明しました。

事前の仮説で立てた「普通EV保有者は、ロングドライブを楽しむ人が多く、軽EV保有者と比べて、経路充電の経験も比較的多いのではないか」といった予想とは異なる結果となりました。なお、BEV保有者の約4割が経路充電の経験がないことも明らかになっています。

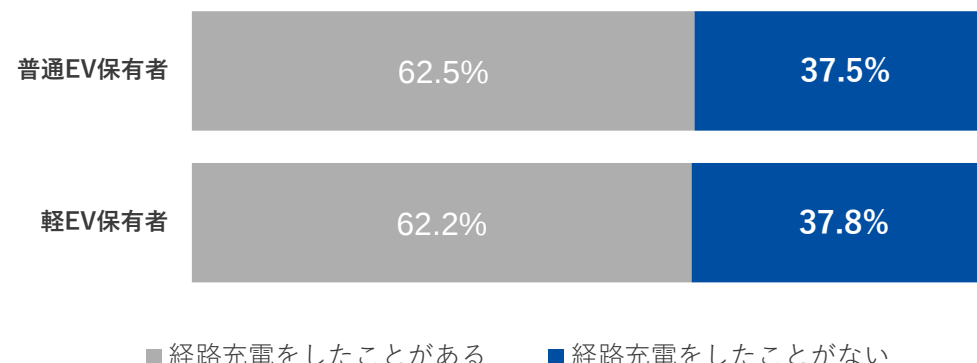
軽EVと普通EV保有者の「経路充電経験比較（％）」

事前仮説

普通EV保有者はロングドライブを楽しむ人が多く、
経路充電の経験も比較的多い

調査結果

「**BEV保有者の約4割**」が経路充電の経験がなく、
軽EVと普通EVで大きな差もない



アンケートと人流データを組み合わせて生まれる価値

航続距離と移動距離の関連性は低い

本調査では、BEV所有者の人流データを分析し、実際に車に乗っているときの移動距離の中央値を算出。さらに、車の航続距離別に移動距離を集計しました。その結果、「車の航続距離が長いからといって、移動の距離が必ずしも長くなるわけではない」ということが明らかになりました。このことから保有車種の航続距離は移動のモチベーションに影響しないということが推測されます。

より正確な情報を収集可能に

「軽EVと普通EV所有者で移動距離に差はない」という結果は人流データからも導き出されているように、今回の調査では、アンケートリサーチと人流データを組み合わせることで、より正確かつ詳細な情報を収集することができています。一般的なりサーチサービスでは調査・分析が難しかったことも、ジオテクノロジーズが保有するデータを活用して実現できる可能性があります。興味がある方はぜひお問い合わせください。

航続距離別の「移動距離中央値 (km)」

人流分析

BEV所有者一人一人について、車移動が行われた「日数」と「移動距離」を算出

集計結果

航続距離別の集計から「保有車種の航続距離で移動のモチベーションは変わらない」

航続距離	対象サンプル	移動距離中央値
100~200km	455	20.35
200~300km	102	16.27
301km~	3054	18.14



ジオテクノロジーズ株式会社

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス 22F

会社概要 <https://geot.jp> サービスのご紹介 <https://geot.jp/products/>

各種お問い合わせ <https://geot.jp/contact/>

お問い合わせ

人流データとアンケートリサーチを組み合わせた調査にご興味がある方はお気軽にお問い合わせください。

- お問い合わせ <https://business.mapfan.com/contact/>

※お問い合わせ商品には「ジオリサーチ」を選択してください。